

障害を乗り越えてパラリンピックへの情熱



パラ馬術は障害の重さで5つのグレードがある。重い方から2番目のグレード2の井上さんが挑む競技は、20m×40mの馬場で、規定のコースを正確に、馬が自然に動いているように回ることが求められる。人がコントロールしているように見せず、いかに馬本来の美しい姿を見せるかが大切だという



激励のため、クローバー牧場を訪れた長崎知事と、井上さん(下)、志村オーナー(上)

パラリンピックは、さまざまな障害のある選手がそれぞれの個性や能力を発揮して世界を舞台に活躍する場であり、誰もが相互に尊重し、支え合い、認め合える社会づくりに大きな影響を与えている大会です。ここでは本県を練習の拠点としてパラリンピックを目標に日々頑張るパラアスリートや、その活動を支えるの方々を紹介します。

山中湖村からパラリンピック出場に挑む

20代前半のときに四肢の感覚や筋力の低下が進行する難病を発症し、リハビリとセラピーを兼ねて乗馬を始めた井上力さん。県内の乗馬クラブに通う中で、山中湖村にあるクローバー牧場のオーナー・志村裕行さんと出会いました。そこから二人と牧場スタッフが一丸となり、東京パラリンピック代表を目指す挑戦が始まりました。

「馬に降り降りしやすい設備など、万全なサポート体制を速やかに整えてくれた志村オーナーの行動力に感動しました。相性の良い馬とも出会い、選手として競技力が向上している自覚があります。オーナーと馬と一緒にもっと高みを目指したいです」という井上さん。現在は愛馬のプリンセスクラリスと東京パラリンピック代表選考会に向け、練習を重ねています。

志村オーナーは「井上さんと知り合ったことで、私も馬術競技に出会いました。井上さんがいるから今の牧場があるんです。パラリンピック代表になる夢を叶えて、関わるみんなが幸せになれるよう、支えていきたいですね。競技を通して、馬も人も成長していると感じます」と笑顔で話してくれました。



パラ馬術選手 井上力さん

「乗馬と出会い、目標を持つことで自分の可能性を感じることができました。後継者育成のためにも、私が頑張る姿を見せたいです」と語る井上さん



クローバー牧場 オーナー 志村 裕行さん

「ここでは馬を通して学校教育とは違った学びの場を子どもたちに提供しています。気軽に馬に触れ合いに来てほしいですね」と語る志村さん

パラクライミングで世界の頂点を目指す

生まれつき左手に軽度のまひがある吉田桃子さんは、平成28年に趣味でクライミングを始めました。その楽しさに魅了され、パラクライミングという競技を始めてからは、世界を舞台に活躍する選手となり、昨年に引き続き今年の世界選手権でも準優勝に輝きました。主に富士吉田市にあるクライミングジムを拠点に練習に励み、世界の頂点を目指しています。

「クライミングは筋力が必要と思われるがちですが、実は頭を使うことが大事なスポーツです。障害があるので、技術が身に付くまで失敗の回数が多いですが、



パラクライミング競技は、制限時間内にどこまで高く登れるかを競う。「競技と出会い、自分と同じ境遇の選手たちが登る姿に触発され、技術を高めたくて没頭したんです」と吉田さん



パラクライマー 吉田 桃子さん

その分得るものがたくさんあります。自分の持つ力でどう解決できるか、考える幅を広げるのが醍醐味です。

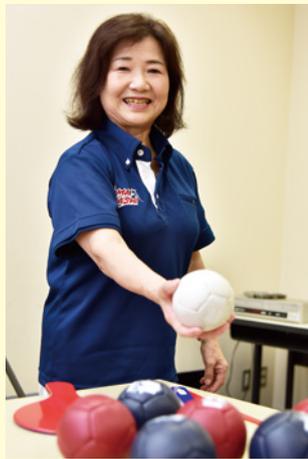
私は会社からのサポートを受け、クライミングジムのスタッフや仲間たちに支えられて、練習や競技に打ち込むことができています。パラ

クライミングの国内での認知度は低いので、私が積極的に健常者の大会に出場することで、同じ境遇の人たちに競技を知ってもらいたいと考えています。そして、いずれはパラリンピックの正式種目に採用されることを願って、競技の普及にも努めていきたいです」と熱い思いを語ってくれました。

障害者のスポーツへの意欲を支える

スポーツは健康維持・増進や精神面の強化、また生きがいや楽しみの発見のためにも欠かせません。県内には、障害のある人がスポーツを気軽に始められるよう支援する、障害者スポーツ指導員がいます。山梨県障害者スポーツ協会の会長で、指導員を務める奈良さんは、障害者スポーツの普及を進めています。

「山梨県には現在、障害者スポーツ指導員が初級、中級を合わせて約130人います。県内における障害者スポーツ大会の開催や国体への引率のほか、施設を訪問して各種スポーツを障害者に体験してもらうなど、障害者スポーツの裾野を広げる活動にも力を入れていきます。近年では指導員初級を取得する大学生も増えていることから、指導員向けのフォローアップも行いながら、多くの障害者が生涯、スポーツを楽しめる環境をつくっていききたいと考えています。県内でも車いすバスケ、水泳、卓球、陸



山梨県障害者スポーツ協会

会長 奈良 妙子さん

「パラリンピックの正式種目であるボッチャは重度障害者でも取り組みやすいんですよ」と用具を手に競技の魅力を語る奈良さん

観戦するなど、興味を持つしてほしいです。私たち指導員も一人一人に寄り添いながら、スポーツの素晴らしさを広めていきます」と優しく話してくれました。



全国障害者スポーツ大会で山梨県選手団を引率する奈良さん

上競技など、さまざまな種目で頑張っている人たちがいます。スポーツを通して社会と関わり、皆さんが生き生きと自立していく姿に、私も力を与えてもらっている日々です。

しかし障害者がスポーツをする環境が整っていないなど、障害者スポーツの普及には多くの課題があります。県民の皆さんにはもつと障害者スポーツを